

取扱説明書

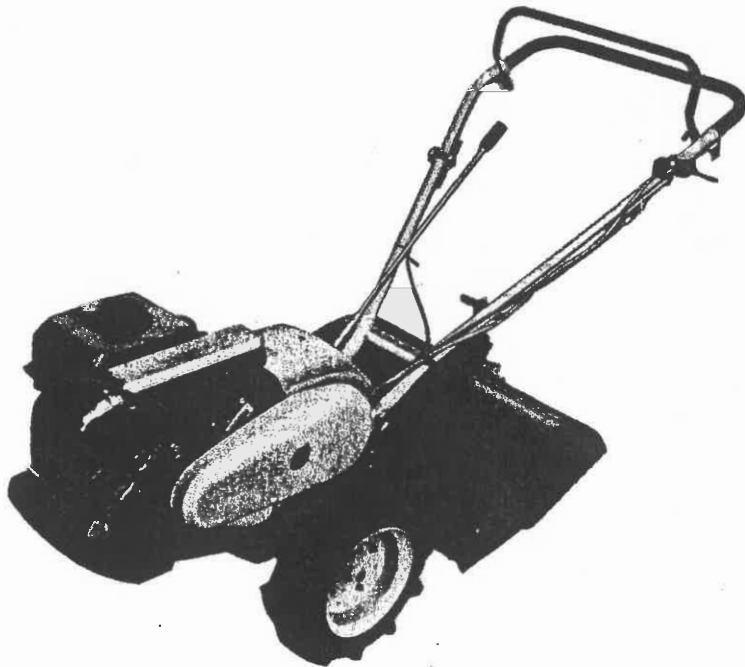
---

**IKS** 小型耕耘機

---

IR5A・IR5AD

---



**IKS** 株式会社カワサキサービス販売

# はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきましてありがとうございます。

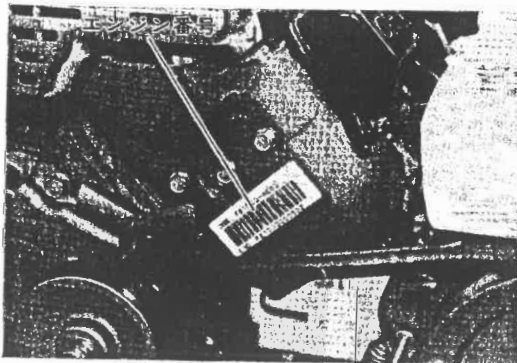
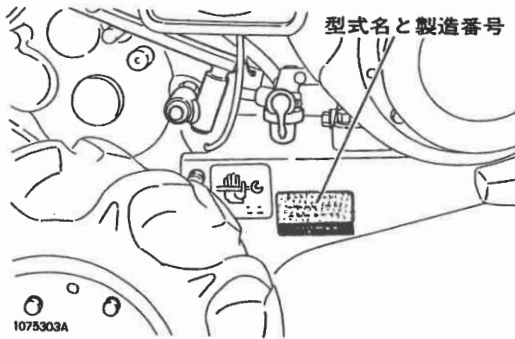
この取扱説明書はあなたの機械を常に最良の状態に保ち、安全な運転作業をしていただくために、正しい取扱い方法と簡単な手入れについて説明してあります。ご使用前によくお読みいただき、十分理解してからご使用していただき、安全で上手な作業にお役立てください。

また、お読みになった後も大切に保管し、本製品を末長くご使用いただけますようにご活用ください。

なお、品質・性能向上およびその他の事情による部品等の変更で、取扱説明書の内容と一部異なる場合があります。あらかじめご了承ください。

## サービスと保証について

機械の不具合は、早期発見するように心がけ、適切な整備をしてください。機械の調子が悪いときは、お買い上げいただいた販売店、農協までお気軽にご連絡ください。その際「型式名と製造番号」を合わせてご連絡ください。



### 補修部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後9年といたします。ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては納期などについて、御相談させていただきます場合もあります。

補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給の御要請があった場合には、納期および価格について御相談させていただきます。

# もくじ

	安全に作業していただくために必ず守っていただきたいこと	3
1	各部のなまえ	5
	運転前の準備	7
	運転のしかた	9
	1. エンジンの始動・停止のしかた……9	
	2. 発進・旋回・変速・停止のしかた……10	
	3. トラックへの積込み・積降しのしかた……11	
	作業に合わせた各部の調節のしかた	12
	1. 耕うん作業のしかた……12	
	2. 耕うん深さの変えかた……13	
	3. 耕うん状態について……14	
	4. 作業や体格に合わせたハンドル高さの調節……14	
3	作業後の手入れについて	15
	1. 毎日の手入れ……15	
	2. 長期間使用しない場合の手入れ……15	
4	定期の点検・整備をするには	16
	1. 定期点検一覧表……16	
	2. 各部注油のしかた……17	
	3. 各部オイルの点検・交換のしかた……18	
	4. エアクリーナの掃除・交換のしかた……19	
	5. 各部ワイヤの調節のしかた……19	
	6. タイヤ空気圧の調節のしかた……20	
	7. 締付けをするところ……20	
	8. 点火プラグの点検のしかた……21	
	9. 耕うん爪の点検と交換のしかた……21	
	10. 燃料パイプ・電気配線の点検のしかた……22	
5	不調診断	23
	仕様	25
	その他	26
	標準付属品……26	主要消耗部品……26
	アタッチメント(別売品)の紹介について	27

1

2

3

4

5

## 作業前に

### 燃料補給するとき

くわえタバコや、裸火照明は、ガソリンに引火したりして危険なので絶対しないでください。



### 注油をするとき

回転部はエンジンを停止してから注油を行なわないと、衣服を巻き込まれたり、手をはさまれたりして、大変危険です。



### 機械を他人に貸すとき

取扱方法をよく説明し、あらかじめ「取扱説明書」を読むように指導してください。



### 注油・給油をするとき

エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、やけどや火災の危険がありますので、注油・給油はしないでください。



### ベルトを交換するとき

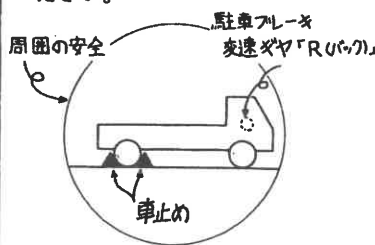
ベルトの交換をするときは、ベルトに手をはさまれ危険です。必ずエンジンを停止してから行ってください。



1051307C

### トラックなどへ積降しするとき

平坦で安全な場所で、トラック等が移動しないように、エンジンを止め、サイドブレーキおよび車止めをしてから行ってください。



## 作業中は

### 作業をするとき

作業に合った、きちんとした服装をしてください。また、飲酒時や過労ぎみのときは、作業しないでください。



### 爪軸へ草が巻きついたとき

エンジンを停止してから、爪軸へ巻きついている草などを取外してください。



1075310B

### 爪を交換するとき

ロータリの点検、爪の取換えは必ずエンジンを停止して行ってください。



1075310C

**発進するとき**

急発進して衝突したりしないよう周囲の安全を確認して、徐々に発進してください。

発進時には周囲をよく見て!



**ロータリ作業をするとき**

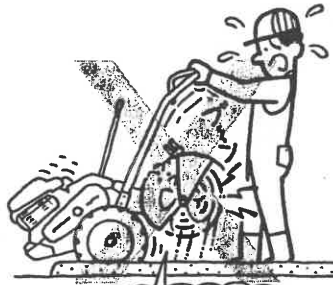
ロータリ正転作業時は、ロータリの回転力によって耕うん機が前に飛び出す場合があります。転落や衝突事故を防ぐため、川やガケ、人のいる方に向かっての作業は行なわないでください。



1075310D

**旋回するとき**

ロータリ部を持ち上げて旋回するため、足もとに十分注意しロータリに巻込まれないように注意してください。



1075311A

**作業が終わったら**


**点検・整備をするとき**

自然に機械が動き出したりしますので、主クラッチを「切」にし、エンジンを確実に停止させてから行なってください。

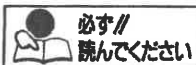
取外した回転部のカバー類は、衣服が巻込まれたりして危険ですので、必ず装備して使用してください。

**1年ごとに定期点検整備を受けて、  
機械を最良の状態に!**

機械の整備不良による事故などを未然に防止するために、1年ごとに定期点検・整備を受け、各部の保安を確保してください。特に燃料パイプや電気配線は、2年毎に交換するようにして、常に機械を最良の状態です。安心して作業が行なえるようにしてください。

この他にも、本文中には安全で快適な作業を行なっていただくために、ぜひ守っていただきたい、安全マーク  と注意マーク【注意】の項目を記載しております。よくお読みいただき、十分理解して必ず守ってください。

**使用マークについて**



機械をよく理解して、安全に作業していただくために、「必ず読んでいただきたい」項目です。



安全に作業をしていただくため、ぜひ「これだけは守っていただきたいこと」を説明しています。

**【注意】**

本機の作業性能を最大限に発揮させるための説明をしています。

# 各部のなまえ

必ず//  
読んでください

図は、IR5ADをモデルにしています。

燃料ゲージ

アクセルレバー

バンパ

マフラ

ベルトカバー

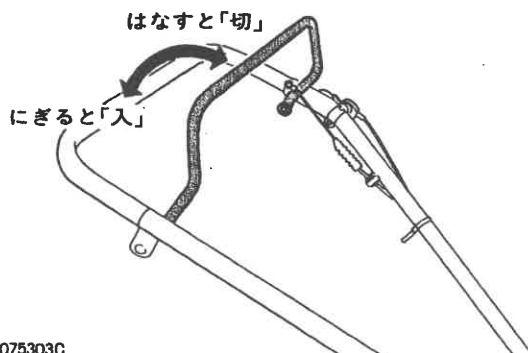
タイヤ

手元スイッチ

ロータリカバー

## 主クラッチレバー(デッドマンレバー)

レバーをにぎるとクラッチが「入」。  
レバーをはなすとクラッチが「切」になります。

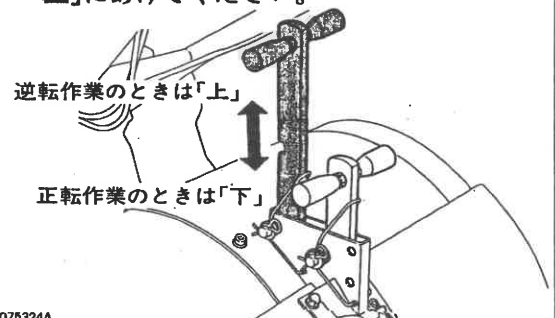


1075303C

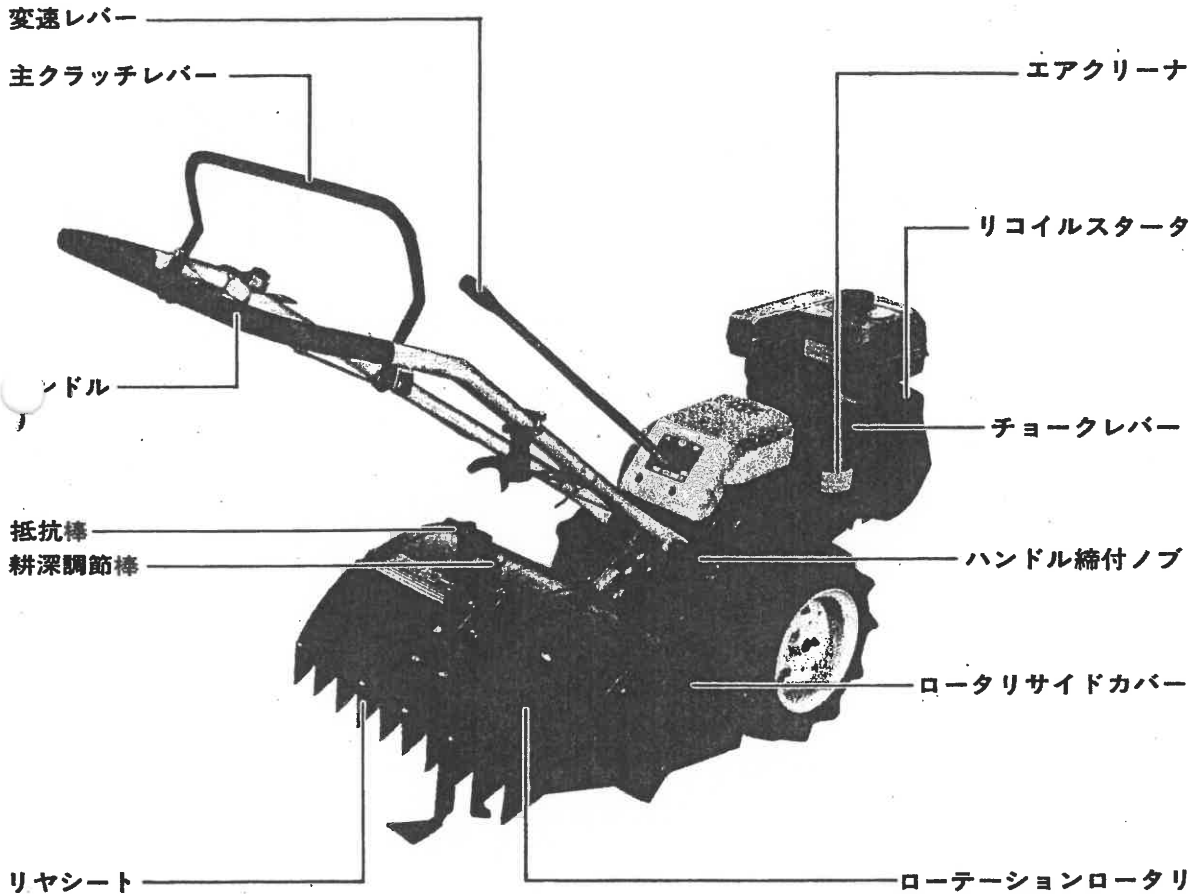
## 抵抗棒

耕うん作業中、ロータリの回転力で機械が前に飛び出すことを抑えます。

- ロータリ変速が「正転」のときは、抵抗棒を「下」位置にさげてください。
- ロータリ変速が「逆転」のときは、抵抗棒を「上」にあげてください。



1075324A



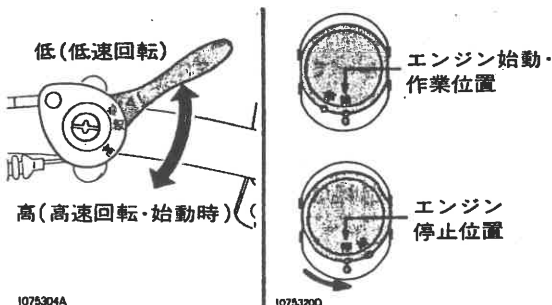
アクセルレバー・手元スイッチ

〈エンジン始動時〉

アクセルレバーは「高」位置、手元スイッチは「始」位置にします。

〈エンジン停止時〉

アクセルレバーは「低」位置、手元スイッチは「停」位置にします。



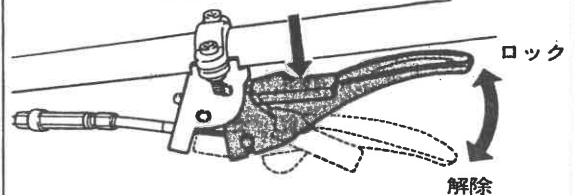
1075304A

10753200

デフロックレバー (AD仕様ののみ)

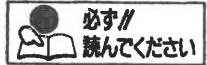
通常は、デフロックレバー「解除」位置で作業してください。耕うん中に片側のタイヤだけスリップして直進しにくい場合に、デフロックレバーを「ロック」位置にすると、左右のタイヤは同じ回転になり直進性が増します。  
※旋回するときは、デフロックレバーを「解除」位置にしてハンドルを振ります。

ここを押しながらレバーを離すと解除できます。



1075324B

# 運転前の準備



## 1. 運転前の点検

安全で快適な作業を行なうには、管理機を使用する前に必ず仕業点検を行い、異常箇所は直ちに整備してから作業を始めてください。

また、作業終了時も点検を行なって異常がないかチェックしてください。

### 管理機のまわりを廻ってみて

- 燃料の量と燃料もれ、燃料パイプの損傷… 8ページ



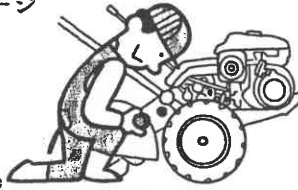
1075311B

- エンジンオイルの量と汚れ、油もれ18ページ



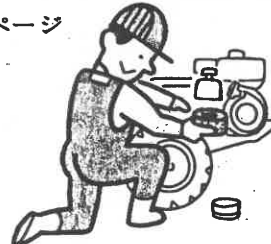
1075312A

- 走行ミッションオイルの量と汚れ、油もれ…18ページ



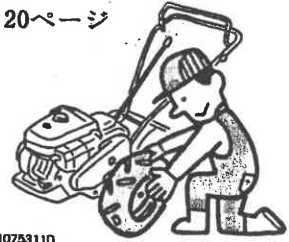
1075311C

- エアクリーナの汚れ…19ページ



1075322B

- タイヤの空気圧、損傷… 20ページ

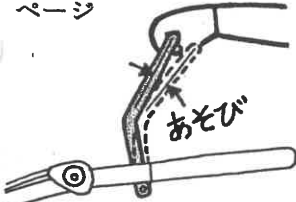


1075311D

- 各部の変形・損傷・汚れ。
- 車体各部の損傷、ボルトのゆるみ。
- マフラなどの過熱部分のほこりやゴミ。
- 配線コードの被覆のはがれや接続部のゆるみ。

### レバーを操作してみる

- 各レバーの遊び量…19・20ページ



1075312C

- ひっかかりのない、確実にスムーズな動作…20ページ



1075312D

### エンジンを始動してみる

- エンジン始動後の異音。
- 排気ガスの色。



1075313A



下記の事項を必ず守ってください。

- 点検・整備を行なうときは、必ずエンジンを停止させてから行なってください。
- エンジンが熱い間は、注油・給油は絶対にしないでください。
- 燃料補給時は、くわえタバコ・裸火照明は絶対にしないでください。
- 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふきとってください。



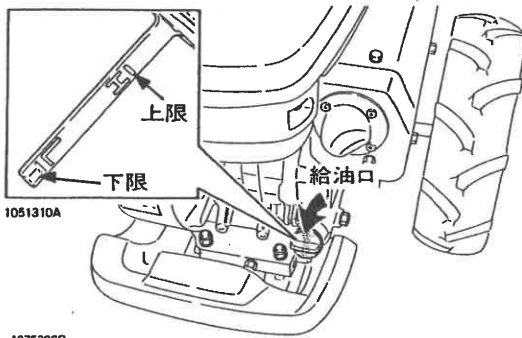
## 2. 燃料とオイル量の確認

### 燃料

燃料タンク上面の燃料ゲージで燃料の残量を調べ、不足している場合は、フィルタについている赤印枠より、ややひかえめに入れてください。

### エンジンオイル

給油口の蓋を外して、ゲージの先端をきれいにふき、ねじ込まない状態で差し込み、再び抜いてゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調べます。

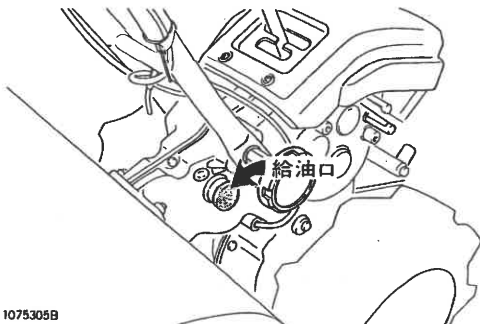


### 【注意】

- オイルの量は、エンジンを停止して調べてください。
- 給油するときは、エンジンを必ず水平に行なってください。

### 走行ミッションオイル

本機を水平な状態にしたとき給油口までオイルがあるか調べます。



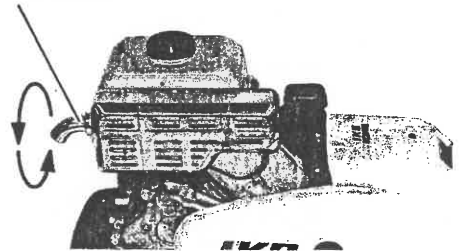
1075305B

## 3. マフラ排気出口の方向の 変えかた

マフラの排気出口を回動させることで、排気の方向を変えることができます。

マフラ排気出口は、排気ガスが人の体や作物にかからない方向に向けてください。

マフラ排気出口



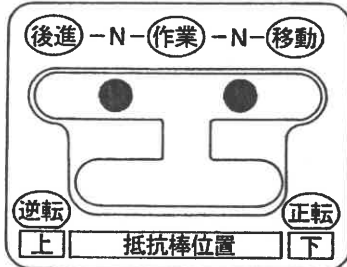
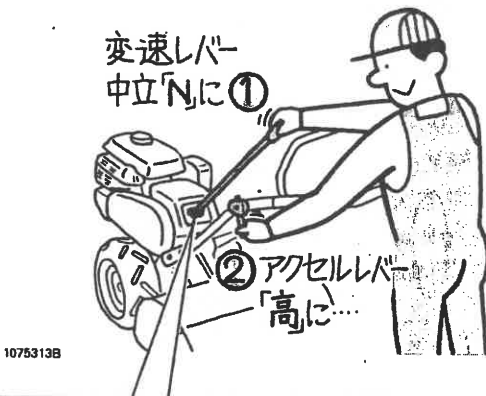
安全のために下記の事項を必ず守ってください。

- マフラ排気口は大変高温となりますので、排気出口の方向を変えるときは、必ず、エンジンを停止し、排気出口が十分に冷えてから行なってください。

## 1. エンジンの始動・停止のしかた

### エンジンの始動のしかた

- ① 変速レバーを「中立」位置にし、アクセルレバーを「高」位置にします。



- ② 燃料コックを「開」位置にし、チョークレバーを引いて「閉(エンジン始動)」位置にします。

※ エンジンが暖まっているときは、チョークレバーは使用しないでください。

- ③ 手元スイッチを「始」位置にし、リコイルスタータをいきおいよく引張りエンジン回転の調子を見ながら、チョークレバーを徐々に押し戻してください。
- ※ エンジン始動後約5分間は、負荷をかけずにエンジンをかけたままにしておいてください。(エンジンの暖機運転)

**+** 下記の事項を必ず守ってください。

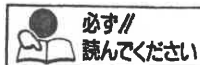
- エンジンを始動するまえに、必ず作業点検を行なってください。
- エンジン始動時には、レバーの位置と周囲の安全を確認してください。
- エンジン暖機運転は、閉めきった室内では行なわないでください。

### エンジンの停止のしかた

- ① アクセルレバーを「低」位置にし、手元スイッチを「停」位置にするとエンジンが停止します。



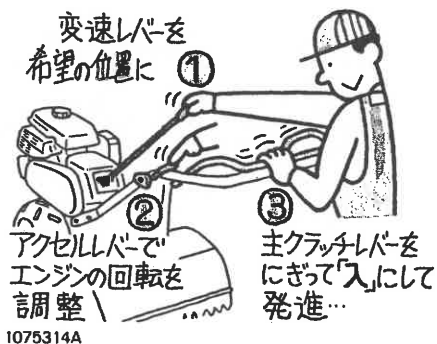
※ 長時間機械を使用しない場合は、燃料コックを「排出」位置にしておいてください。キャブレタ内のガソリンは、自動的に抜けます。



## 2. 発進・旋回・変速・停止のしかた

### 発進のしかた

- ①変速レバーを「移動」・「作業」・「後進」の希望の位置に入れます。
- ②アクセルレバーでエンジンの回転を調整します。
- ③主クラッチレバーを「入」位置にして発進します。



**+** 下記の事項を必ず守ってください。

- 発進するときは、周囲の安全を確かめて発進してください。

### 旋回のしかた

ハンドルを振って行なってください。  
 ※IR5ADの場合は、デフロックレバーを「解除」位置にしてから行なってください。

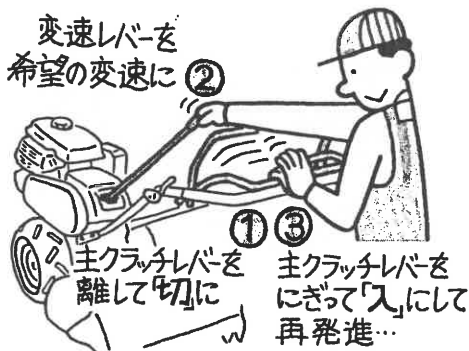
**+** 下記の事項を必ず守ってください。

- 旋回するときは、足もとに十分注意し、ロータリに巻込まれないようにしてください。

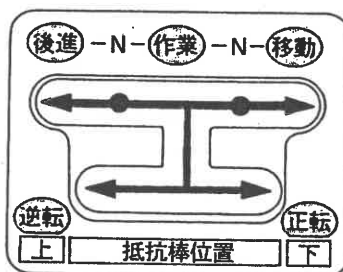
### 変速のしかた

作業の途中で変速する場合は、下記の要領で行なってください。

- ①主クラッチレバーをはなし「切」位置にします。
- ②変速レバーを操作し、希望の変速に入れ換えます。
- ③主クラッチレバーを「入」位置にして、再発進します。



※「作業」位置ではゆっくりと、「移動」位置ではスピーディーな前進ができます。

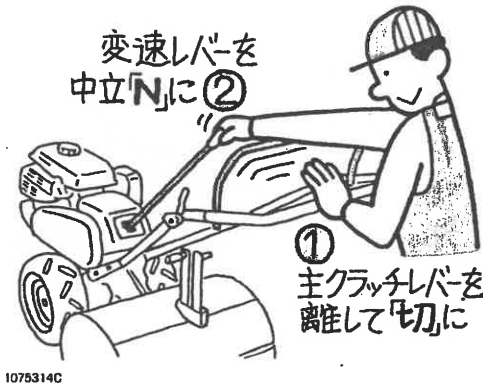


**【注意】**

- 移動のときは、変速レバーを「正転」「逆転」位置へは絶対に入れないでください。

### 停止のしかた

- ①主クラッチレバーをはなし「切」位置にして、機体を停止します。
  - ②変速レバーを「中立」位置にします。
- ※機械から離れる場合は、必ずエンジンを停止してください。(9 ページ参照)



1075314C

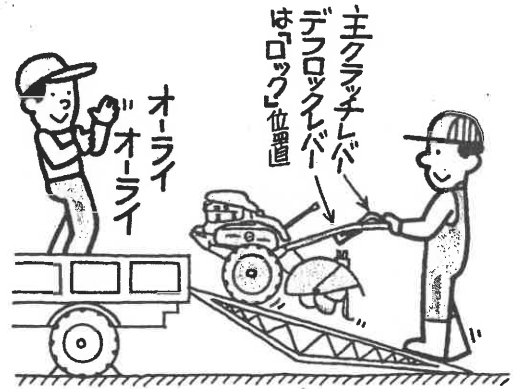
### 3.トラックへの積込み・積降しのしかた

**+** 下記の事項を必ず守ってください。

- 積込み・積降ろしの場所は、平坦で安定した場所を選んでください。
- 耕うん機の真前は危険ですので、立たないようにしてください。
- アユミ板のフックを、荷台に段差のないよう確実に掛けてください。

#### 積込み・積降しのしかた

- ①周囲に危険物のない、平坦な場所を選びます。
- ②基準に合ったアユミ板を用意します。
- ③積込みの場合は「作業」、積降しの場合は「後進」で行なってください。



1075314D

#### <アユミ板の基準>

アユミ板は基準に合った、十分な強度のあるものをご使用ください。

- 長さ……車の荷台高さの3.5倍以上。
- 幅……小型耕耘機の車輪幅に合ったもの。
- 強度……小型耕耘機の重量に十分耐えられるもの。
- すべらないように処理してあること。

#### 【注意】

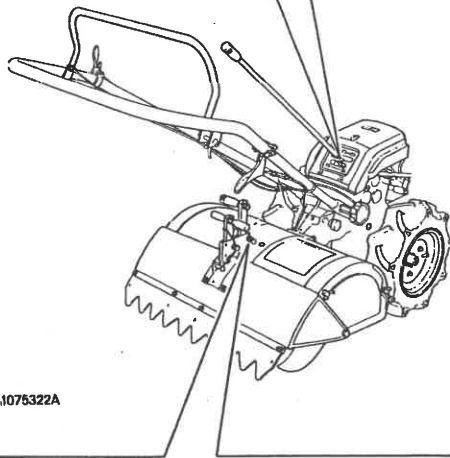
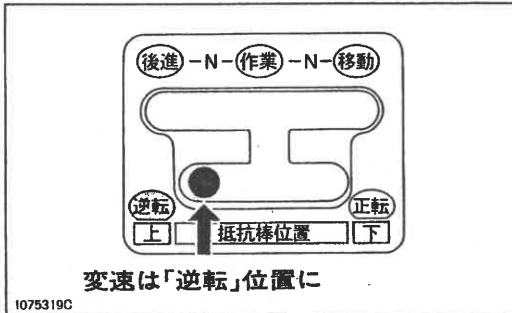
- トラックへの積込み・積降し時には、デフロックレバーを必ず「ロック」位置にしてください。(AD仕様のみ)
- トラックへの積込み・積降し中にアユミ板の上で主クラッチレバー・デフロックレバー (AD仕様のみ) の操作は絶対にしないでください。
- 左右のタイヤがアユミ板の中央に位置するようにセットしてから行なってください。
- 耕うん機がアユミ板とトラック等の継ぎ目を越えるときは、急に重心が変わりますので、充分ご注意ください。
- トラックなどに積んで走るときは、十分強度のあるロープを使用し、確実に固定してください。さらに「車止め」をしてください。

# 作業に合わせた各部の調節のしかた

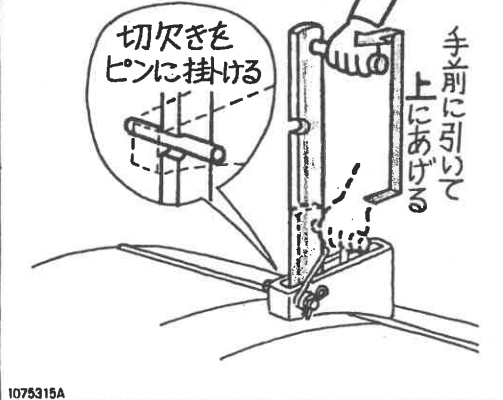
## 1. 耕うん作業のしかた

### 硬い場所の耕うん作業

ロータリは、「逆転」で作業を行なってください。また、抵抗棒は「上」にあげてください。

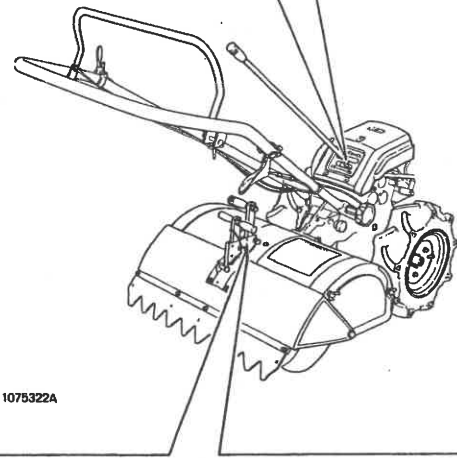
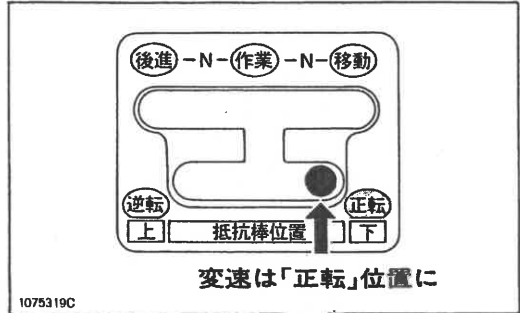


抵抗棒は「上」に

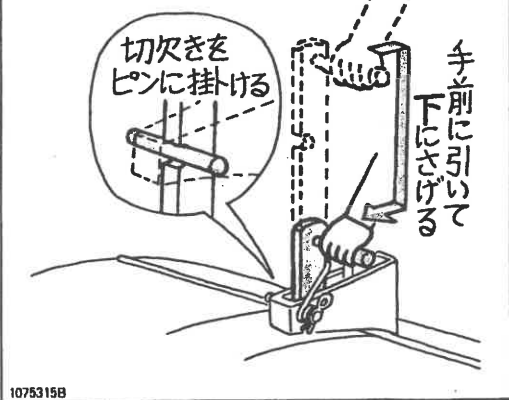


### 軟かい場所の耕うん作業

ロータリは、「正転」で作業を行なってください。また、抵抗棒は「下」にさげてください。



抵抗棒は「下」に





下記の事項を必ず守ってください。

- 耕うん部の巻付きをとるときは、必ずエンジンを停止してから行なってください。
- 作業中はハンドルを支えるだけとし、無理に押し付けないでください。  
押し付けた場合、状況によっては機械が前へ飛び出すことがあります。



1075315C

- ハンドルから手を放せばクラッチが切れ、機械は停まります。
- ロータリ正転作業時は、ロータリの回転力によって耕うん機が前に飛び出す場合があります。  
転落や衝突事故を防ぐため、川やガケ、人のいる方に向かっての作業は行なわないでください。



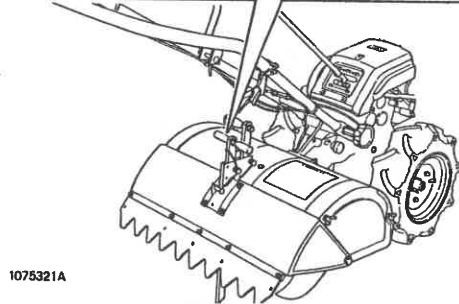
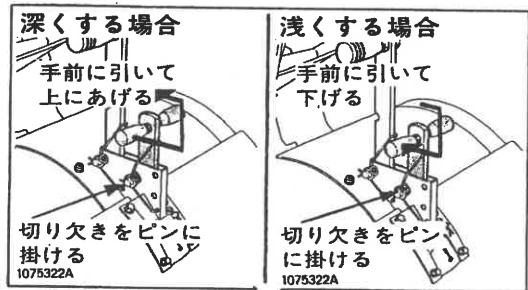
1075310D

## 2. 耕うん深さの変えかた

耕うん深さの調節は、耕深調節棒の上下によって行います。

黒色の耕深調節棒を手前に引き、「切欠き」から外して上下させ「切欠き」にかみ合わせます。

耕深調節棒を「上」にする……深くなる  
「下」にする……浅くなる



1075321A

「抵抗棒」「耕深調節棒」の操作が重くなった時は、以下の操作をします。

1. 主クラッチレバーを「切り」
2. エンジンを「停止」し
3. ローテーションロータリ内の「抵抗棒」「耕深調節棒」に詰まった泥、草等を取り除き塗布してください。

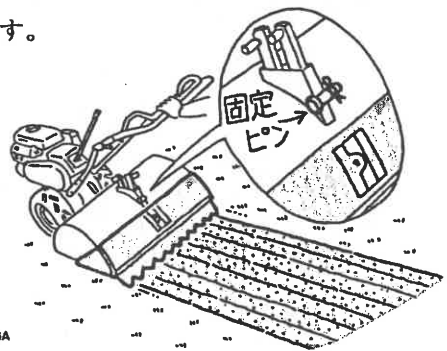


1075315D

### 3. 耕うん状態について

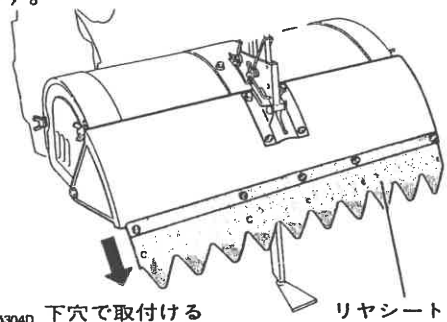
#### 平面耕のしかた

ローテーションロータリの固定ピンを外して作業すると、カバーが回転することにより均平度の良いすじ目の入った平面耕ができます。



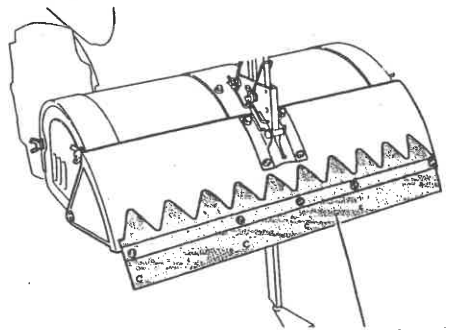
1075316A

さらに、リヤシートの取付位置を下穴にすると、やわらかな筋目の入った平面耕ができます。



1075304D 下穴で取付ける リヤシート

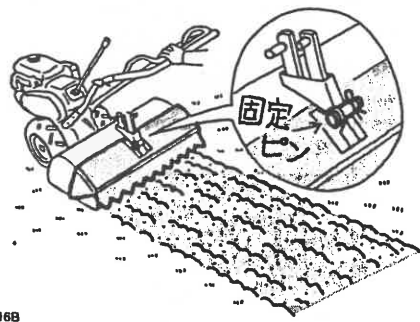
リヤシートの上下を変えて取付けると、すじ目の入らない平面耕ができます。



1075320A リヤシートの上下を変える

#### 内盛り耕のしかた

ローテーションロータリを上げて固定すると、中高の内盛り耕ができます。



1075316B

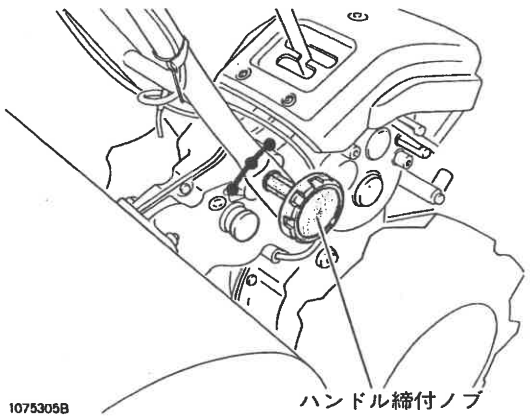
#### 【注意】

- 湿った土で作業するとローテーションロータリの内側に土が付着することがあります。そのようなときは付着した土を除去してください。

### 4. 作業や体格に合わせたハンドル高さの調節

ハンドルの高さは、作業や使われる方の体格に合わせて3段階に調節できます。

ハンドル締付ノブを外して、上下調節をし、適当な高さで固定してください。



1075305B

ハンドル締付ノブ

# 作業後の手入れについて

正しい手入れを行なってください。

## 1. 毎日のお手入れ



下記の事項を必ず守ってください。

- お手入れは、必ずエンジンを止めてから行なってください。

- ロータリや本機についた土やヨゴレを落とします。



10753108

- エアクリーナのオイルパンを取外して、掃除しオイルを交換します。



1075322B

- エアクリーナの吸気口に水が入らないように注意して、水洗いします。



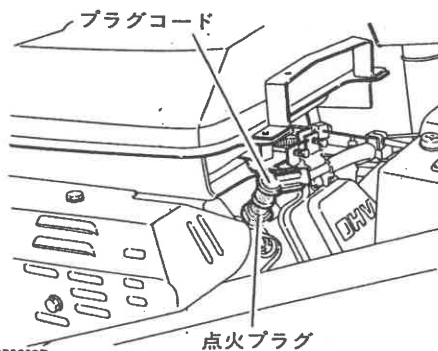
1075322C

- 各レバー支点、摺動部に注油します。

(17ページ参照)

## 2. 長期間使用しない場合の手入れ

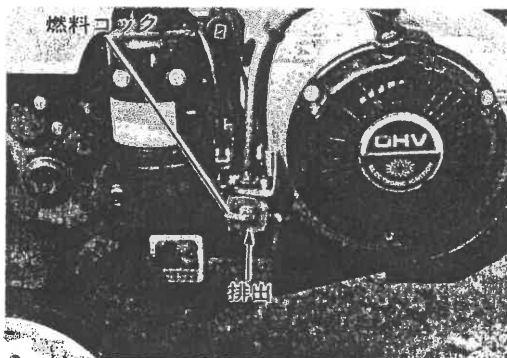
点火プラグを外し、プラグの穴からエンジンオイル30番を10cc位入れ、リコイルスタータを2～3回引き、再びプラグを取付けてリコイルスタータを軽く引き、重くなった所(圧縮のある)で止めておきます。プラグコードは確実に押し込んでください。また、燃料タンク・キャブレタ・燃料コシ器の中の燃料は抜き取っておいてください。



1073309D

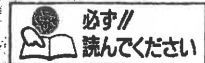
### 〈燃料抜きの要領〉

燃料コックを「排出」位置にしてください。キャブレタ内のガソリンは、自動的に抜けます。





# 定期の点検・整備をするには



定期点検や整備は、農閑期に行ないますと農繁期には機械の性能が十分発揮され、安全で快適な作業が行なえます。機械の整備不良による事故などを未然に防止するために、1年毎に定期点検整備を受け、各部の

保安を確保してください。特に燃料パイプやゴムホース類は2年毎に交換し、電気配線は毎年点検するようにして、常に機械を最良の状態安心して作業が行なえるようにしてください。

## 1. 定期点検一覧表

点検・調節箇所	規定量	内 容	点検・交換時期	参照ページ
エンジンオイルの交換	0.55 ℓ	エンジンオイルSC級以上 ●夏期(20℃以上)…SAE30番 ●秋・春期……………SAE20番 ●冬期(10℃以下)…SAE10W～30番	1回目:20時間目 2回目以後: 100時間目	18ページ
走行ミッションオイルの交換	IR5A ……3.2 ℓ IR5AD ……2.8 ℓ	ミッションオイル90番	1回目:50時間目 2回目以後: 100時間目	18ページ
エアクリーナの掃除		オイル補給または交換・清掃	作業前に点検	19ページ
デフロックレバー (AD仕様のみ)	1～3 mm	A部遊び量		20ページ
主クラッチレバー	10mm程度	指で押したときのたわみ量		19ページ
タイヤの空気圧	1.2kg/cm <sup>2</sup>			21ページ
点火プラグ	0.8～0.9mm	火花ギャップ(電極スキマ)		21ページ
エンジン取付ボルト		増締め		21ページ
ハンドル締付ノブ・ボルト		増締め		21ページ
燃料パイプ、 電気配線の点検		燃料パイプとその結合部の点検。 電気配線の被覆のはがれや傷を点検。	2年毎に交換	22ページ



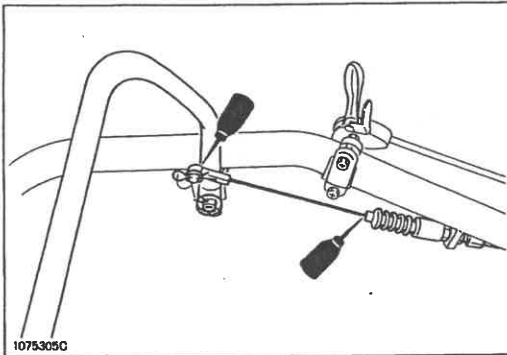
下記の事項を必ず守ってください。

- 点検・整備をするときは、エンジンを確実に停止させ、各レバーを「切」にして、回転部が止まってから行なってください。
- 取外した回転部のカバー類は、衣服が巻込まれたりして危険ですので、必ず取付けて作業してください。

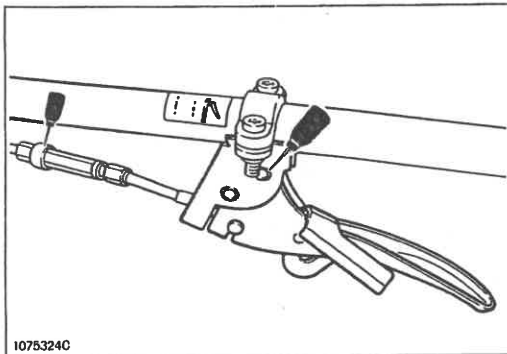
## 2. 各部注油のしかた

定期的に油さして確実に注油してください。

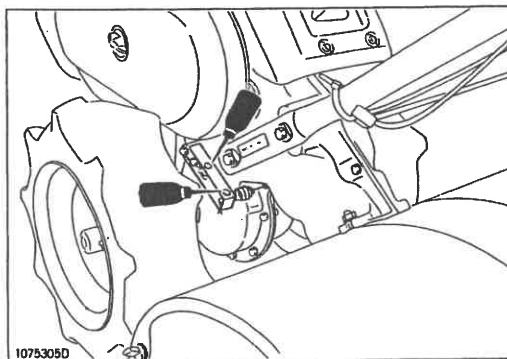
### 主クラッチワイヤ・レバー支点



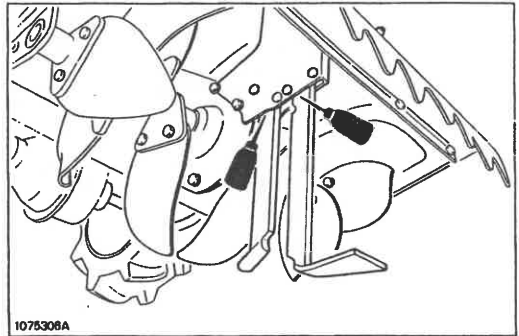
### デフロックワイヤ・レバー支点



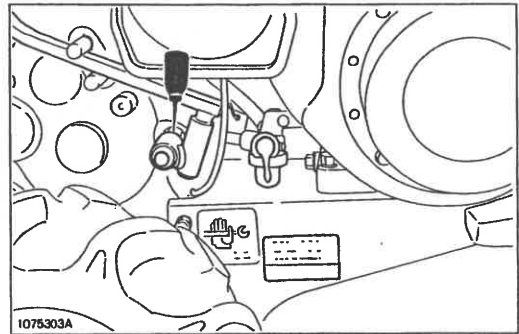
### デフロックレバー支点(ミッション側)



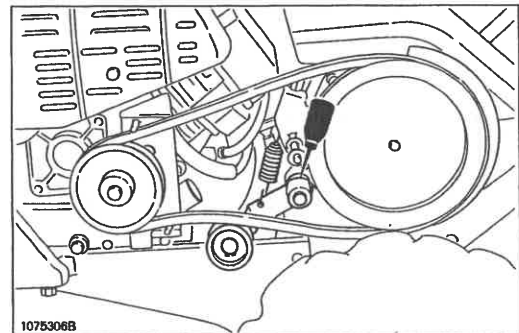
### 抵抗棒・耕深調節棒



### 変速レバー支点



### テンションローラ支点



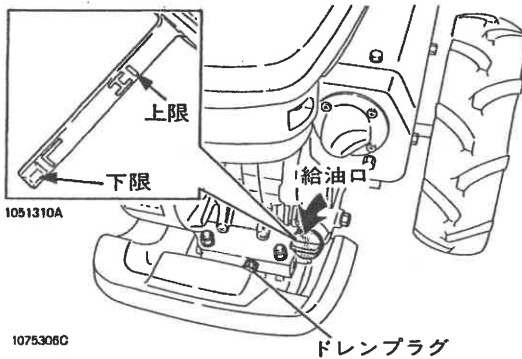
### 3. 各部オイルの点検・交換のしかた

古くなったオイルは、機械の性能を落すだけではなく、故障の原因にもなります。定期的に古いオイルを抜き取り、新しいオイルを規定量給油してください。

#### エンジンオイル

##### 点検

給油口の蓋を外して、ゲージの先端をきれいにふき、ねじ込まない状態で差し込み、再び抜いてゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調べます。



##### 【注意】

- オイルの量は、エンジンを停止して調べてください。
- 給油するときは、エンジンを必ず水平に行なってください。

##### 交換

エンジクラク室の給油口を取外してから、ドレンプラグを外して汚れたオイルを流し出します。給油は、給油口より検油ゲージの規定量まで入れてください。

##### 【注意】

- エンジンが温かいうちに抜くと、容易に抜くことができます。
- 給油するオイルは、必ず指定オイルを使用してください。

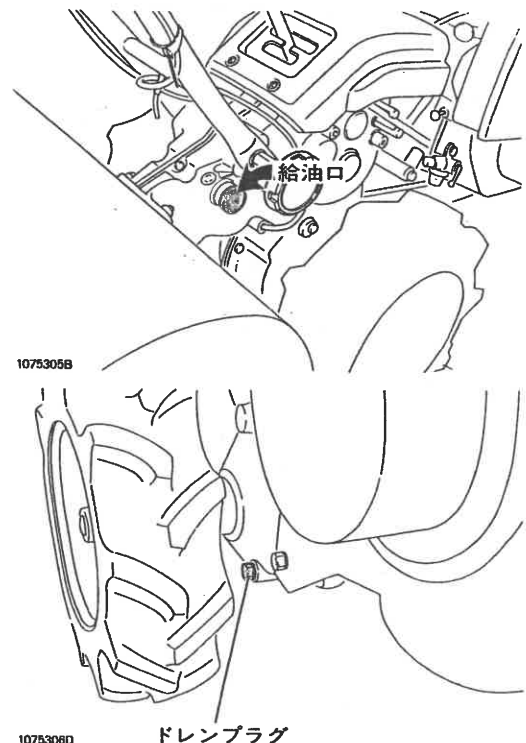
#### 走行ミッションオイル

##### 点検

油もれのないことを調べてください。

##### 交換

走行ミッションケース下部にあるドレンプラグを外して、汚れたオイルを流し出します。給油は、給油口の口元までいれてください。



##### 【注意】

走行ミッションが温かいうちに抜くと、容易に抜くことができます。

#### 4. エアクリーナの掃除・交換のしかた

エアクリーナは、吸入された空気に含まれている砂塵を取り、シリンダライナ・ピストンリングの摩耗を防ぎエンジンをいつも快調にする装置です。10～20時間ごと（ほこりの多い所では5時間ごと）に掃除をし、オイルパン内のオイルを交換してください。

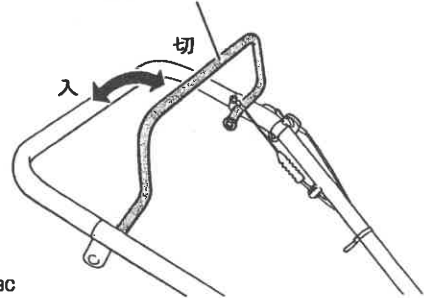
#### 5. 各部ワイヤの調整のしかた

##### 主クラッチレバー

##### 点検

「入」「切」が確実に行なわれ、しかも「切」状態でベルトのつれ回りがいいこと。

主クラッチレバー

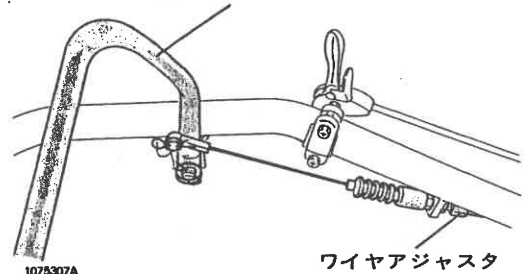


1075303C

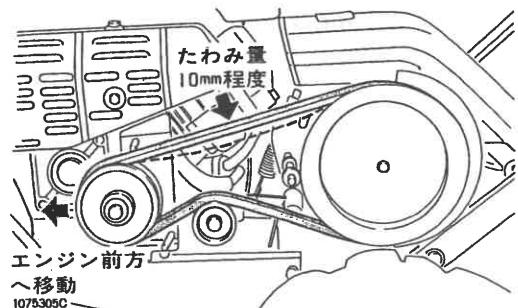
##### 調整のしかた

作業中にベルトのスリップがない程度に、主クラッチワイヤアジャスタで調整します。アジャスタで調整シロがない場合には、エンジンを前方に移動させて、主クラッチレバーが「入」位置のときベルトの中央を指で押えて、たわみ量を10mm程度になるように調整してください。

主クラッチレバー



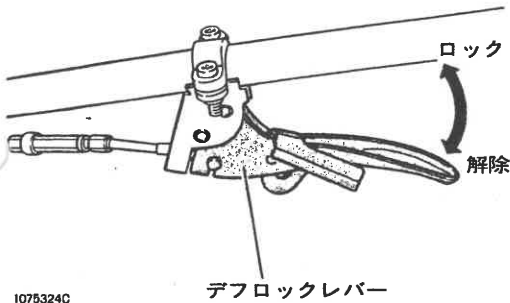
1075307A



### デフロックレバー(AD仕様のみ)

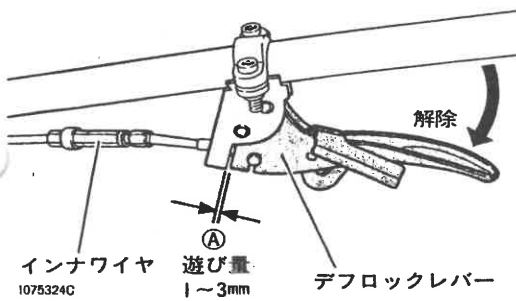
#### 点検

レバー操作で、「ロック」・「解除」が確実に作動すること。



#### 調節のしかた

デフロックレバーを「解除」位置(デフロックしていない状態)で、インナワイヤのたるみを取除き、このときA部の遊び量が1～3mmになるように調節してください。



#### 【注意】

- デフロック調整後は、必ず確実に作動するか確認してください。

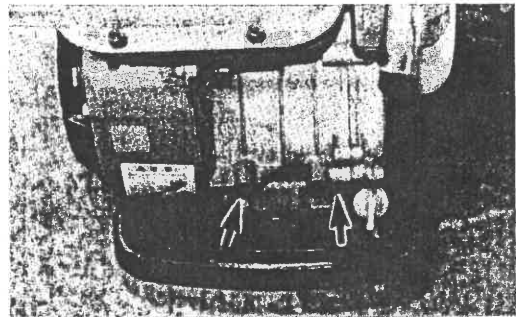
### 6. タイヤ空気圧の調整のしかた

左右のタイヤの空気圧を、1.2kg/cm<sup>2</sup>位に調整してください。

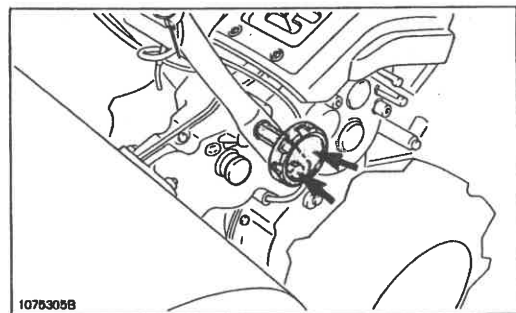
左右の空気圧が均等になっていないと、運転中ハンドルを取られることがあります。

### 7. 締付をするところ

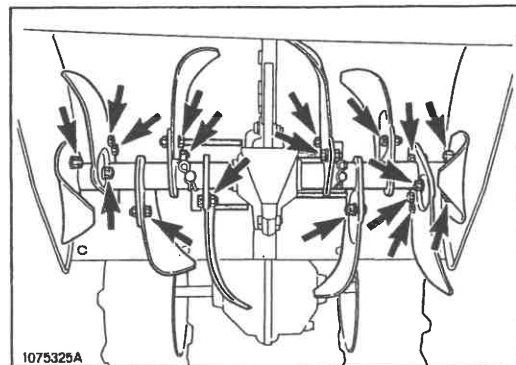
#### エンジン取付ボルト



#### ハンドル締付ノブ・ハンドル締付ボルト



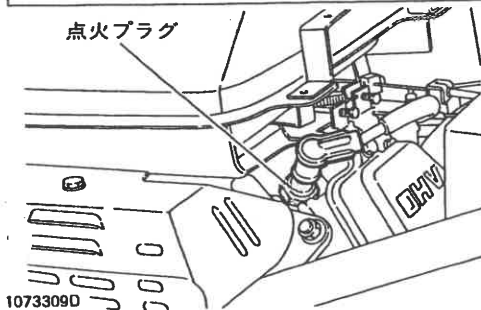
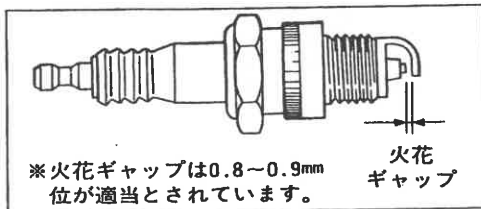
#### 耕うん爪



## 8. 点火プラグの点検のしかた

- ①定期的に点火プラグを取りはずし、電極部の焼け具合、損耗程度を点検し、ワイヤブラシで清掃のうえ火花ギャップ（電極すきま）を0.8～0.9mmに調整します。
- ②電極部が損耗または、破損したものは新品と交換します。そのまま使用するとエンジンの不調、排ガス不良となります。

標準点火プラグ	NGK製(BP5ES)
---------	-------------



1073309D

## 9. 耕うん爪の点検と交換のしかた

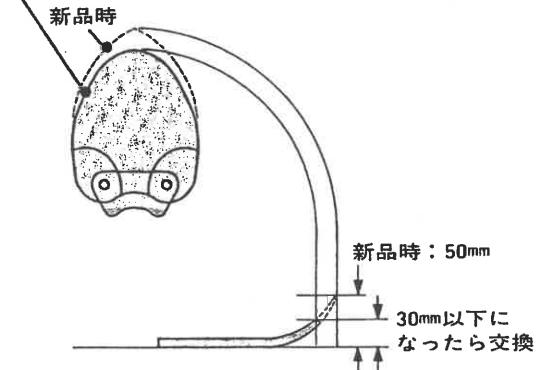
### 点検

耕うん爪の損傷・曲がり、および摩耗を調べてください。また、取付部のカタがないかも調べてください。

### 〈爪の交換時期〉

爪を平坦な場所に置き、爪の先端までの高さが30mm以下になったら交換時期です。

### 交換時期の爪

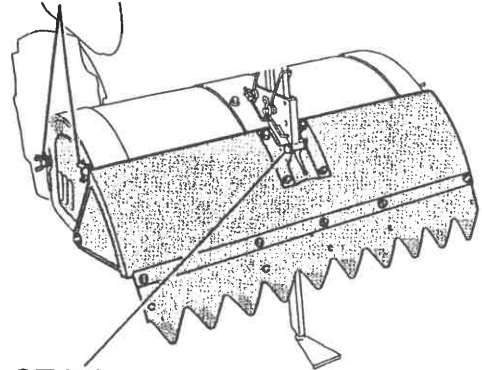


1075319D

### 交換

耕うん爪を交換するときは、ローテーションロータリを上にあげると交換しやすくなります。また、サイドカバー全体を取外すとさらに取外しが交換しやすくなります。

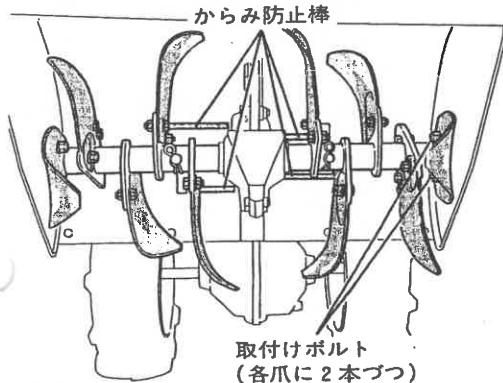
- ①チョウボルト(左右各2本)を取外します。



- ②固定ピンを取外します。

1075304D

耕うん爪の取付ボルト各2本を取外して爪を交換します。(内側から1枚目、2枚目の各1本は、からみ防止棒と共締めします。)

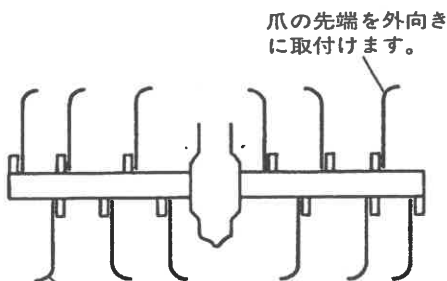


1075325A

※からみ防止棒は、ロータリ爪軸への草・ワラの巻きつきを軽減します。爪軸が回転するとシャフトも同時に回転し、爪軸の見かけ上の径が大きくなり、草・ワラの巻きつきが少なくなります。

耕うん爪を取付けるときは、最外側よりひとつ内側の爪だけ先端が外側に向くように取付けます。

他の爪は全て先端が内側を向くように取付けます。



1075324D

爪の先端を外向きに取付けます。

## 10. 燃料パイプ・電気配線の点検のしかた

燃料パイプの傷や接続部の締付バンドのゆるみ、燃料もれが無いか確認してください。また、電気配線コードが他の部品に接触して被覆のはがれや傷、または、接続部のゆるみがないかを点検します。燃料パイプや電気配線コードが傷んでいる場合は、販売店などで修理してください。傷んでなくとも2年毎に交換するようにしてください。



下記の事項を必ず守ってください。

- 燃料パイプの老化や傷による燃料もれがあると、火災の原因になります。作業前後に点検し、もれがあれば交換してください。
- バッテリーや配線コードに付着しているワラクズやゴミは、作業前後にきれいに取除いてください。

※もし機械の調子が悪いときは、表を参考にし、必ずエンジンを止めてから診断してください。

状 況	点 検 箇 所	処 置
エンジンがかからない	燃料がなくなっていないですか。	ガソリンを補給してください。 (8ページ参照)
	エンジンの始動手順が間違っていないですか。	正しい始動手順でエンジンをかけてください。(9ページ参照)
	燃料コックが「停止」になっていませんか。	燃料コックを「開」にしてください。 (15ページ参照)
	燃料に水が入っていませんか。	燃料コシ器に水が溜ってれば、キャブレターや燃料コシ器を外して水抜きをしてください。
	点火プラグが悪くありませんか。	
点火プラグの火花スキマを調節し、それでもかからない場合は新しい点火プラグと交換してください。 (21ページ参照)		
エンジンの力がない	エアクリーナにゴミがつまっていませんか。	オイルパン内のオイルを補給または、清掃・交換してください。 (19ページ参照)
	エンジンオイルが少なくありませんか。	エンジンオイルを補給してください。また、オイルが古くなっている場合は、新しいオイルと入れ替えてください。(18ページ参照)
	ベルトが張りすぎていませんか。	適切な張りに調節してください。 (19ページ参照)
	エンジンの回転は上がりますか。	アクセルレバー取付位置が動いていたら、元の位置に確実に固定してください。



状 況	点 検 箇 所	処 置
エンジンの力がない	エンジンの圧縮はありますか。	点火プラグおよびシリンダヘッドボルトを締付けてください。(21ページ参照)
		ピストンリングなどの摩耗も考えられますので、購入先に相談してください。
各部に振動が多い	エンジンが振れるのではありませんか。	エンジン取付ボルトを締め直してください。(20ページ参照)
	ハンドルが振れるのではありませんか。	ハンドル締付ノブを確実に締め付けてください。(20ページ参照)
主クラッチレバーを「入」位置にしても走行しない。	ベルトが伸びてスリップしていませんか。	ベルトの張りを調節してください。(19ページ参照)
デフロックレバーを「入」位置にしてもデフロックしない。(AD仕様のみ)	ワイヤが伸びていませんか。	ワイヤの調節をしてください。(20ページ参照)
抵抗棒、耕深調節棒の操作ができない。	抵抗棒、耕深調節棒に泥や草が付着していませんか。	泥や草を取除き、耕深ボックスの摺動部分にオイルを塗ってください。(13ページ参照)

名 称		IKS 小型耕耘機		
形 式		IR5A	IR5AD	
機 体 寸 法	全 長 (mm)	1410		
	全 幅 (mm)	575		
	全 高 (mm)	1040	1050	
重 量 (kg)		74	78	
主クラッチ方式		デッドマンクラッチ(ベルトテンション)		
車 速	車 速 (m/sec)	1 速	0.30	0.32
		2 速	0.90	0.96
		R 速	0.30	0.32
タイヤサイズ		3.50-6	3.50-7	
ロ ー タ リ	変 速 (段)		正転・逆転各 1	
	耕うん軸回転速度 (rpm)	正 転	213	
		逆 転	236	
耕 幅 (mm)		500		
耕 う ん 軸 形 状	形 状		丸形ピン穴	
	全 長 (mm)		216	
	ピン穴位置		184	
	軸 径 (mm)		φ25	
エ ン ジ ン	形 式		FE161G	
	排 気 量 (cc)		171	
	最 大 出 力 (PS)		5.0	
	始 動 方 式		リコイル	
	点 火 プ ラ グ		NGK-BP5ES	
	燃料タンク容量 (ℓ)		3.4	

# その他



## 標準付属品

No.	コード	品名	個数	備考
1	1A1750-83900	工具袋	1	
2	160330-92730	ドライバ (+)	1	
3	160110-92700	ボックススパナ 21	1	
4	28110-100120	スパナ 10×12	1	
5	28110-120140	スパナ 12×14	1	
6	1A2170-88931	取扱説明書	1	

## 主要消耗部品

No.	品名	No.	品名
1	V ベルト SB-36H、BS製 JB×36	5	点灯プラグ NGK-BP5ES
2	アクセルワイヤ	6	車輪オイルシール
3	主クラッチワイヤ	7	耕うん軸オイルシール
4	デフロックワイヤ(AD仕様のみ)		

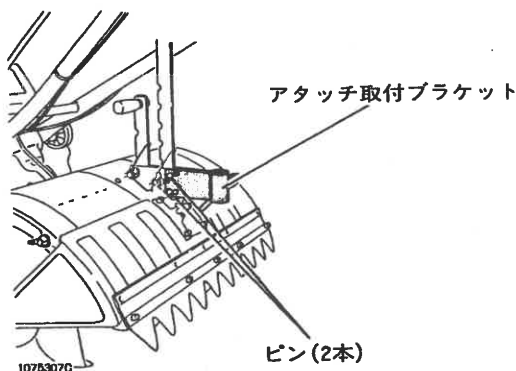
# アタッチメント(別売品)の紹介について

## 1. 装着位置と用途について

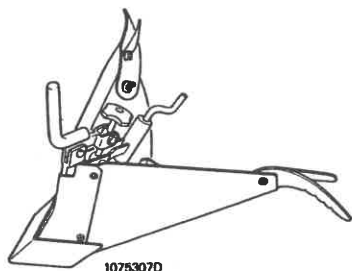
### 培土板と移動輪

- ①ローテーションロータリを上にあげて、ロータリに装着してある固定ピンで固定します。
- ②赤色の抵抗棒を「上」にします。
- ③黒色の耕深調節棒を「最上」にします。
- ④アタッチ取付ブラケット(別売)を2本のピンで取付けます。

※アタッチメント(培土板、移動輪等)装着時は、ローテーションロータリを上にあげた状態で固定してください。



培土板



移動輪

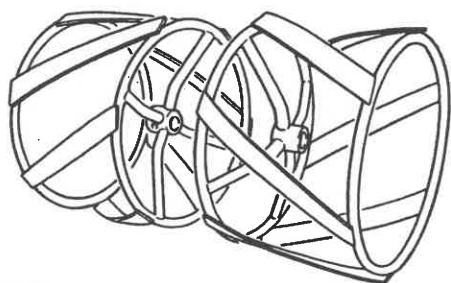


### スパイラルロータ(除草作業)

ロータリのサイドカバーを外して、爪交換と同じ要領で取付けてください。

#### 〈作業上の注意〉

- 赤色の抵抗棒を「上」にします。
- 逆転で使用します。
- ロータ内部に草の堆積が多い場合は、サイドカバーを取外して使用してください。



※なお詳しくは、アタッチメントに付属している取扱説明書を参照してください。

発売元：**IKS** 伊セキカワサキサービス販売株式会社

本社	〒100 東京都千代田区丸の内1丁目8番2号(第二鉄鋼ビル) 電話 (03)3214-4631 FAX(03)3214-4630
北海道営業所	〒068 北海道岩見沢市5条1丁目4番地 電話 (0126)24-4339 FAX(0126)24-4339
東北営業所	〒983 宮城県仙台市若林区大和町5丁目30番30号 電話 (022)238-1021 FAX(022)283-1790
関東第一営業所	〒365 埼玉県鴻巣市大学鴻巣字沼田1202番地 電話 (0485)43-3620 FAX(0485)43-5462
関東第二営業所	〒365 埼玉県鴻巣市大字鴻巣字沼田1202番地 電話 (0485)43-3620 FAX(0485)43-5462
関西第一営業所	〒673 兵庫県明石市和坂14番地の7(竹中ビル) 電話 (078)927-2841 FAX(078)927-2946
関西第二営業所	〒673 兵庫県明石市和坂14番地の7(竹中ビル) 電話 (078)927-2841 FAX(078)927-2946
中四国営業所	〒673 兵庫県明石市和坂14番地の7(竹中ビル) 電話 (078)927-2841 FAX(078)927-2946
九州営業所	〒862 熊本県熊本市尾ノ上1丁目10番12号 電話 (096)365-5151 FAX(096)365-3923

取説 (IR)



5012170110002